

## 【年末年始 en Perú】

そろそろ冬が近づいてきました。買い物に行くと色々なお店のデコレーションがクリスマス仕様になってきています。

日本から見て、ほぼ地球の反対側にある南米ペルー。丸亀市にはペルー出身の方が多く住んでいることもあり親しみのある国のひとつですが、カトリック教徒が9割近くを占めるペルーでは、クリスマスは家族が揃って祝うとても大切な行事です。

テーブルの上に並んだ七面鳥や子豚の丸焼きで乾杯！デザートにクリスマスケーキ、というところですが、ペルーでは「パネトン」というパン菓子を食べます。パネトンは洋酒漬けのドライフルーツがたっぷり入った大きな発酵パンのお菓子で、軽くトーストしたパネトンにバターを塗って食べると最高においしいのです。

実はこのパネトンはイタリア発祥（イタリア語では「パネトーネ」）で、イタリア系の移民によって南米にも持ち込まれました。イタリア、スペイン、ポルトガル、ブラジル、ペルー、チリなどの国では、クリスマスシーズンであればこのパネトンを味わうことができ、パネトンを店頭で見かけるようになると、クリスマスが近くなったことを感じるのです。（ちなみに南半球にあるこの国ではクリスマスは夏の行事です）

さて、クリスマスを終えると次は年越しですが、ペルーの年越しに欠かせないものといえば「黄色」グッズです。黄色は幸運の色とされており、大みそかに黄色いものを身に着け新年を迎えると幸せになると言われています。特に黄色い下着を着るとよいということで、年末になると下着売り場には黄色い下着でいっぱいになるそうです。

それから、新年へのカウントダウンの時ですが、日本では「年越しそば（香川県では年越しうどん、もしくは年明けうどんもあります）」となるところを、ペルーでは「年越しぶどう」を食べます。大みそかに12粒のぶどうを食べると、その一年間が幸福なものになると考えられています。実はこの風習はスペインから伝わったもので、本来は新年を迎える12時の鐘に合わせて1粒ずつぶどうを食べるというものですが、中には大みそかの食事の時に食べる人もいます。

ぶどうや下着はちょっと・・・という方でも、黄色いグッズなら家の中にありそうです。今年の大みそかは何か黄色いものを身に着けてみてはいかがでしょうか。



【パネトン】